

かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現に向け、宗門総合振興計画の取り組みを進めながら、来るべき親鸞聖人ご誕生八五〇年ならびに立教開宗八〇〇年の慶讃法要をとともにお迎えいたしましょう。

平成三十一年一月九日
二〇一九年

龍谷門主 釋 專 如

.....
尊いご消息を頂戴いたしました。四年後のご法要に向けて私たちも力をあわせてまいりましょう。関東は、立教開宗の地です。誇りをもってこの度のご法要に出遇わせていただきましょう。

二月の定例法話会は、この度のご消息を頂いて、ご講師の前田先生からご法話を頂く予定にしております。是非、お参りください。

お詫びのこと

この度同封させて頂いた「善了寺門徒の方への重要なお知らせ」の文章内で、誤りがございました。心からお詫び申し上げますと共に、左記の通り訂正させていただきます。

(誤) 善了寺平成三十年寺維持費・墓地整備費のご納入について

(正) 善了寺平成三十一年寺維持費・墓地整備費のご納入について

平成31年2月・3月の行事予定

定例法話会 2/8 14時
武蔵野大学准教授 前田壽雄 師
テーマ 立教開宗について

親鸞聖人月命日
浅井成海先生月命日法要
2/16 14時
引き続き『今を生かされて』輪読会

定例法話会 3/8 14時
本願寺布教使 岩崎教大 師

親鸞聖人・浅井成海先生月命日
3/16 14時
引き続き『今を生かされて』輪読会

春季彼岸会期間 3/18 ~ 24
期間中毎日 10時・14時 法要



善了寺境内地に新しい墓地区画が完成いたしました。

お問い合わせはお寺まで。

発行責任 浄土真宗本願寺派善了寺 住職成田智信

メール: yan0348@gmail.com ホームページ <http://www.zenryouji.jp/>

住所: 横浜市戸塚区矢部町125 電話: 045-881-0348 FAX: 045-881-0379

善了寺ニュース2月号

今月の主なメニュー

- | | |
|----------|-------------|
| 1, 善了寺日記 | 3, お知らせ |
| 2, 行事案内 | 4, 還る家ともに日誌 |

発行責任：浄土真宗本願寺派
善了寺住職 成田智信
第271号
発行日：平成31年2月1日

善了寺日記

寒い日が続きますね。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年についての消息が發布されました。

先日、一月九日ご本山の報恩講初日に、御門主よりご消息(ごしようそく・御門主からのお手紙のこと)が發布されました。謹んで全文掲載いたします。

.....
親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年についての消息

来る二〇二三年には、宗祖親鸞聖人のご誕生八五〇年、また、その翌年には立教開宗八〇〇年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり、二〇二三年に慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安三年・一一七三年にご誕生となり、御年九歳で出家得度され、比叡山で修行を重ねられました。二十九歳の折、山を下りて法然聖人の御弟子となられ、阿弥陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流罪になられ、赦免の後、関東に赴かれて他力念仏のみ教えを人々に伝えられるとともに、『教行信証』の執筆にとりかかれました。他力念仏のみ教えがまとめられた本書は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。そして、そのご本

典の記述によって、その成立を親鸞聖人五十二歳の時、すなわち元仁元年・一二二四年とみて、この年を立教開宗の年と定めています。

仏教は今から約二五〇〇年前、釈尊が縁起や諸行無常・諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まります。翻って私たちは、この執われのないおさとの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人(ひと)と争ったりしています。釈尊は、このような私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿弥陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿弥陀如来の願いが、南無阿弥陀仏のお念仏となってはたらき続けてくださっていることを明らかにされたのです。

ありのままの真実に基づく阿弥陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそがれ、自己中心的な考え方しかできない煩惱具足の私たちも決して見捨てられることはありません。その広大な慈悲を思うとき、親鸞聖人が「恥づべし傷むべし」とおっしゃったように、阿弥陀如来のお心とあまりにもか離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。しかし、この慚愧の思いは、阿弥陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。

それは、阿弥陀如来の願いを一人でも多くの人に伝え、他人(ひと)の喜び悲しみを自らの喜び悲しみとするような如来のお心になう生き方であり、また、世の安穩、仏法弘通を願われた親鸞聖人のお心に沿う生活です。み教えに生